

## 【報告書】

# 第6回福大生による東アジア映画字幕制作成果発表会について

間 　　ふ 　　さ 　　子

## 1. はじめに

第6回福大生による東アジア映画字幕制作・成果発表会は2014年9月27日(土)に行われた。

本年度の成果発表会について特記すべきことは、諸般の事情により中国映画のみの成果発表になったことである。これは主として少人数の教員で運営せざるをえない東アジア地域言語学科の事情によるもので、今後はこの形で続く可能性もあるが、この成果発表会がつねに「東アジア地域」を意識していることに変わりはない。

今回は、韓国映画の上映がないため、有志学生の勉強会によって制作した中国の劇映画のほか、本学科正課の科目（中国コース二年選択必修科目「コミュニケーション中国語ⅠAB」）で学生が制作した中国のアニメーションの日本語字幕を整理して上映した。この授業は、学生の中国語力の向上を目指して、中国のアニメーションの台詞ないしはナレーションを聞き取り、内容を理解して、グループ作業により日本語字幕を作るというもので、2015年度前期までに9本のアニメーションの字幕制作を行っている。本年はそのうち3本を選んで上映した。この3本はそれぞれ剪纸アニメ、人形アニメ、水墨画アニメという中国ならではのアニメーションで、中国の伝統文化が20世紀のメディアである映像に継承されたものだが、微力ながらこういった中国文化のすそ野の広さを紹介することも、この成果発表会の役割の一つであろう。

以下、その成果発表会について簡単ではあるが概要をまとめておきたい。

## 2. 実施報告

### 2-1. 事業名

第6回福大生による東アジア映画字幕制作成果発表会

### 2-2. 概要

このプログラムは、人文学部東アジア地域言語学科の有志学生と教員が協力して、1950、60年代の作品等、普段あまり見ることのできない韓国・中国映画に日本語字幕を付け、その成果を市民に公開しようと2009年から始めたものである。6回目に当たる本年は、諸般の事情に

より韓国映画の上映はなく、1960年代の中国映画1本、および中国のアニメーション3本に日本語字幕を付けて上映した。この事業はアジアフォーカス・福岡国際映画祭2014協賛企画である。

### 2-3. 内容

- (1) 日時：2014年9月27日(土)
- (2) 会場：福岡天神エルガーラ7階多目的ホール
- (3) 主催：福岡大学人文学部東アジア地域言語学科
- (4) 後援：福岡市、福岡市教育委員会、駐福岡中国総領事館
- (5) プログラム：13：00 開場  
13：30 中国のアニメーション（「猪八戒スイカを食べる」「落とし主を捜せ」「おたまじゃくしとお母さん」）上映  
14：30 中国映画「錦上添花」上映  
15：45 終了
- (6) 入場料：無料
- (7) 上映：プロジェクタ投影

### 2-4. 上映作品

- (1) 剪纸アニメーション「猪八戒吃西瓜（猪八戒スイカを食べる）1958年、監督：万古蟾、上海美術電影制片廠制作
- (2) 人形アニメーション「路边新事（落とし主を捜せ）」1964年、監督：王樹忱、上海美術電影制片廠制作
- (3) 水墨画アニメーション「小蝌蚪找媽媽（おたまじゃくしとお母さん）」1960年、監督：特偉、上海美術制片廠制作
- (4) 中国映画「錦上添花」1962年、監督：呉国光、謝添、陳方千、出演：韓非、趙子岳、凌元、田烈、陳志堅、李長樂

### 2-5. 参加者数

のべ185名。

### 2-6. 配布物

- (1) チラシ（大学公式ホームページにも掲載。）

(2) リーフレット (当日会場にて配布。後掲。)

### 2-7. 情宣・報道など

- (1) アジアフォーカス・福岡国際映画祭2012公式リーフレット (後掲)
- (2) アジアフォーカス・福岡国際映画祭公式HP
- (3) 福岡大学公式HP
- (4) 福岡大学人文学部東アジア地域言語学科HP
- (5) Fula語学学習会FACE BOOKページ

### 2-8. 観客の感想 (全62通、のべ129件)

- (1) 中国アニメ (「猪八戒吃西瓜 (猪八戒スイカを食べる)」「路辺新事 (落とし主を捜せ)」「小蝌蚪找媽媽 (おたまじゃくしとお母さん)」)に関するもの: 49通
- (2) 中国映画「錦上添花」に関するもの: 52通
- (3) その他全般的なご意見: 30通  
詳細は後掲。

### 2-9. 字幕制作参加者

教員: 2名。

学生: 人文学部東アジア地域言語学科 計16名。

内訳は以下の通り。

1年次	2年次	3年次	4年次	OB	計
3	2	3	6	2	16

※準備期間が2013年度後期から2014年度前期に亘ったため、学生の学年は2014年度現在のものを示し、2013年度の最高学年在籍者はOBとして表示した。

※一年次生は夏の合宿のみに参加。

## 3. 字幕制作について

第1回から第4回までは中国映画と韓国映画の双方に日本語字幕を付けてきたが、第5回から中国映画のみの字幕制作となった。

中国映画は、過去四回とほぼ同じ工程で作業を進めた。すなわち以下のような流れである。

- (1) 第5回発表会 (9月) を終えた翌10月から、今年度の作品のセリフの読み合わせを週1回 (2013年後期: 金曜3限、14年前期: 月曜4限) の勉強会として行い、中国語のセリフの直訳を作る。2013年後期は最高学年 (四年) が2010年度入学の学生、以下2011年度入学の三年生、2012年度入学の二年生がこの勉強会に参加した。2014年前期は三年、二年の学年が一年ずつ繰り上がり、新たに2013年度入学の二年生2名がメンバーに加わった。このセリフの読み合わせは2014年7月まで行われた。やり方は中国語字幕付きの映像と中国語のセリフを投影するパワーポイントを組み合わせ、一つ一つのセリフを読み、意味を確認していくというもので、この方法はここ数年変わっていない。読み合わせ

後は各シーンを一人が担当して日本語訳を作る。今回はファイルのやりとりにもoodleを利用して見た。まだ試験的な使用に止まっているが、次回はもう少し活用したいと思っている。

- (2) 7月の試験期間中、試験の少ない四年生がスポッティングを行い、そのファイルを使って分担して字幕の初稿を作成した。
- (3) 初稿完成後、一人が一つの役柄のセリフを通して推敲する「役柄別推敲」を行い、推敲後のファイルを集団推敲に於いて用いるファイルとした。
- (4) 8月下旬に本学の研修施設やまなみ荘にて2泊3日の集団推敲合宿を行い、そこでゼロ号を完成させた。
- (5) 合宿後最後の推敲を行い定稿とした。
- (6) 9月は主としてリーフレット制作を行った。
- (7) 発表会当日は、受付や司会、案内などを学生が担当した。

この活動も今回で6回目となるが、実は最も苦勞しているのが、学期中の勉強会の時間の確保である。これも学科内の事情だが、本学科は専任教員が少なく非常勤講師に専門科目を担当していただく率が比較的高い。そのため、毎年時間割作成に非常に苦勞しており、そういった事情のもと、平日に一年から四年までの学生が一堂に会して勉強する時間を確保することができない。やむなく毎年一月末に行われる時間割編成会議の際に、二年次から四年次までが揃うことのできる時限を確保し、そこで勉強会を行っている。一年生にこの勉強会の存在を伝えるため、今年は、一年生に声をかけ、8月末の推敲合宿への参加者を募った。その結果、3名の一年生が参加してくれ、この3名は二年次になるとそのまま勉強会のメンバーとなった。上級生の経験を下級生と共有し引き継いでいけるよう今後も工夫を続けていきたい。

## 4. 成果発表会当日について

今回は、2013年と同様、会場としてお借りしているエルガーラホールのリニューアル後の多目的ホールをお借りした。ただこのホールは大型のスクリーンが備え付けではないため、外部から調達せざるを得ず、その分の費用が加算される。とはいえ、上映するのが古い映画で、映像そのものが十分にクリアではないため、上映効果を確保する意味でも大型スクリーンの使用はぜひ継続したいところである。

過去五回の発表会において、当日お客様から出る注文は、前の人の頭が邪魔になって字幕が見えにくい、ということと、ホールの冷房が効きすぎているというものであった。

今回、椅子は観客が位置を調整できるよう咬ませないで置いていただいた。フラットの会場で上映する限り、前の人の頭が邪魔になるという問題を完全に解決するこ

とは難しいと思われるので、毎回丁寧にお客様に説明して了解をいただくほかには思っている。

字幕は今年も向かって右上に縦書きで表示した。

冷房に関しては、これまで同様、会場内に学生を配置し体感温度をこまめに確認して調整した。今回はそれほど苦情は出なかったようである。過去の経験がすこしずつ蓄積されてきたのではないと思われる。今後も状況に応じた対応を心掛けたい。

なお、上にも記したように、当日の受付や司会などは、勉強会に参加している学生が行った。

## 6. 当日配布したリーフレット

今回も教員と学生の共作でリーフレットを制作し当日の来場者に配布した。内容は以下の通り。(後掲資料参考)

- (1) 間ふさ子「中国アニメと日本人との縁」
- (2) 甲斐勝二「《錦上添花》の歌と修辞」
- (3) 間ふさ子「映画『錦上添花』について」
- (4) 小野沙也香、内川安由美、白水明里「錦上添花をもっと楽しむために！私たちが調べました！」
- (5) 種村理恵、田代菜穂、花田優花、山田華菜、北村綾子、古川志保、三田村康夏、武藤曼曼「字幕制作を終えて…みんなの感想」

## 7. 観客の感想(順不同、記述のまま)

### 7-1. 中国のアニメーション3作品に関するもの

#### a) 作品に対する感想

- ・中国のアニメは初めてだったのですが、絵がとても素敵で内容もほほえましく、思った以上に楽しめました。またみてみたいと思いました。(女・30代)
- ・どれも大変楽しいアニメでした。(60代)
- ・初めて中国アニメを見たけど、色彩も優しくてストーリーの内容も心温まるものでした。(女・10代)
- ・おたまじゃくしのアニメの絵がかわいかった。(40代)
- ・水墨画のアニメはきれいな映像でした。(男・70代)
- ・たのしかった。(女・40代)
- ・きれい おたまじゃくしの美しさ(50代)
- ・楽しいアニメでした。(男・80代)
- ・絵がかわいらしく古い映画<sup>マ</sup>にしては(女・60代)
- ・興味深かったです。(30代)
- ・たのしめました。(40代)
- ・西瓜はちょっと退屈。時代を表してますね財布は今は警察へ届けますから。親子の形が違うのに目をつけ、面白く出来ています。(女・70代)
- ・面白かったです。(男・70代)
- ・ほのほのとしてとてもよかったです。(60代)
- ・猪八戒吃西瓜が一番いいと思った。(女・60代)
- ・おたまじゃくしとお母さんは特に感動的だった。水墨

画の世界が素晴らしい(70代)

- ・面白かった。(男・70代)
- ・昔の中国アニメを見たのは初めてだったので楽しかった。(40代)
- ・面白かったー全部！(女・30代)
- ・かわいいアニメで心がいやされました。善意な心が身にしみました(女・70代)
- ・とても可愛らしかった。(女・70代)
- ・とてもおもしろい映画でした。(女・60代)
- ・猪八戒…猪八戒が1人で食い意地をはってスイカを食べてしまったので、その後罰が当たった事がいましめのようにおもしろかったです。路辺…おとしものをさがす、子供と大人のさまがとてもほのほのして、中国の良さがわかった。おたまじゃくし…おたまじゃくしが母をさがすのがおもしろかったです。(女)
- ・水墨画、きれいでした。(男・50代)
- ・古さを感じない良い作品でした。(70代)
- ・絵もかわいかったし、ストーリーもよかったですし、中国語もよく聞き取れてうれしかった(50代)
- ・「路辺新事」—教育アニメだと思います。日本でいう文部省すいせん。カエル(おたまじゃくし)の話は日本の昔あった小さい子供がみた絵本に似ていました。(女・60代)
- ・色々なスタイルのものがあり、どれも楽しかった。特に「小蝌蚪」は絵も美しく、解りやすくて良かったです。(女・70代)
- ・可愛らしかったです。(女・40代)
- ・小蝌蚪找妈妈が面白く分かりやすかった。(70代)
- ・ストーリーがよく分かりました。作品の選定、よかったです。(男・40代)
- ・楽しい作品。(60代)
- ・なつかしい感じがした。(男・60代)
- ・古い話でしたが中国の国情がよく反映された作品で久しぶりにこういう作品を見て面白かったです。(女・50代)
- ・たのしかった。(男・60代)
- ・とても面白かった。特に猪八戒のものは中国におけるイメージがよくわかった。(男・50代)
- ・おもしろかった。(女)
- ・昔のものを初めてみた。(男・40代)
- ・素朴、牧歌的。教訓臭はあるが、昔を思い出し懐かしかった。(男・60代)
- ・ごちない動きと絵がとてもかわいかった。楽しく見れた。(女・40代)
- ・どれもとても可愛らしい作風でした。なかなか見る機会がないものを見れて良かったです。(女・30代)
- ・良かった。
- ・路辺新事、小蝌蚪の二つが良かった。(男・60代)
- ・3作品共、人形だったり水墨画だったりそれぞれ



違って飽きずに見ることが出来ました。当時の中国がアニメを通して子供たちに伝えようとしていることが目に見えておもしろかったです。(女・20代)

- ・たのしかったです。(60代)
- ・大変おもしろかったです。(50代)
- ・おもしろかったです。(50代)
- ・アニメがとてもかわいらしかったです。内容もよくとても楽しめました。(女・20代)

#### b) 字幕に対する感想

- ・中国語は分からないのですか、絵と自然にマッチして楽しく見ることが出来ました(女・30代)
- ・位置が右側上方よりで後ろの席でも見やすかった。文字もよみやすい字体でよかった。(女・60代)
- ・生き生きとした表現で楽しめました。(60代)
- ・良く出来てます。(男・70代)
- ・たまに「これ文分かる！」というところもあって嬉しくなりました。でも訳は日本人に伝わる分かりやすい字幕でした。(女・10代)
- ・わかりやすかった。ところどころ中国語の意味がわかりました。(40代)
- ・子供にでも理解できるように工夫してありました。(男・70代)
- ・よかったです。(女・40代)
- ・中国語の音の美しさをわかりやすい日本語でよかった。(50代)
- ・良く工夫された作品でした。(男・80代)
- ・的確に表現されていたと思います。(女・60代)
- ・読み易く、良かったと思います。「路辺新事」で「借りる」が「貸」になっていたような…「小蝌蚪」のナマズはサンショウウオでは。(30代)
- ・わかり易く楽しかったです。(40代)
- ・生き生きしたセリフでした。(女・70代)
- ・良くできていました。(男・70代)
- ・わかりやすかったです。(60代)
- ・良くできていました。(60代)
- ・原語の長さの均変化にピッタリ合っているように感じました。(70代)
- ・很好。(男・70代)
- ・とても見やすかった。(40代)
- ・すごい！(女・30代)
- ・良かったと思います。(女・70代)
- ・解り易かったです。(女・70代)
- ・わかりやすかったです。(女・60代)
- ・わかりやすかった。(女)
- ・わかりやすかったです。(男・50代)
- ・私は全く分からなかったが努力して作られたことがわかりました。(70代)
- ・よかったです。(50代)

- ・じょうずでした。(女・60代)
- ・わかりやすかった。(女・70代)
- ・明解。(70代)
- ・とてもよかったです。(男・40代)
- ・見やすい(60代)
- ・メリハリがきいていた。(男・60代)
- ・原文に忠実した訳でご苦労様でした。もうすこし原作のユーモラスなニュアンスを出せたらいいなあ。(女・50代)
- ・よくわかった。(男・60代)
- ・わかりやすい、良い字幕でした。(男・50代)
- ・良くできていた。(女)
- ・大変見やすかった。(男・40代)
- ・ピッタリ合っていた。(男・60代)
- ・分かりやすくて良かった。(女・40代)
- ・コンパクトに読みやすくまとめられていてテンポも良く訳されていたと思います。(女・30代)
- ・OK。
- ・大変見やすかった。(70代)
- ・上手。学生がしたとは想像できない。手慣れた翻訳に<sup>マ</sup>晩！(男・60代)
- ・テンポよく、分かりやすかったと思います。長さも丁度よかったですように見えます。(女・20代)
- ・よくわかりました人情味がある内容でした。(60代)
- ・よくできてました。(50代)
- ・勉強されているようすがわかりました。(50代)
- ・とても自然だったと思います。キャラクターに入り込むことができました。(女・20代)

#### 7-2. 中国映画「錦上添花」に関するもの

##### a) 作品に対する感想

- ・(はなまるの絵あり)(女・40代)
- ・楽しい作品。時々歌ありで楽しめました。子どもづれでしたが充分たのしめました。(女・50代)
- ・楽しい時間を過しました。達成感はすばらしかったです。しょう。(男・80代)
- ・少しも古さを感じず良い映画だったと思います。(男・60代)
- ・楽しくて明るい映画でおもしろかったです。ありがとうございました お疲れ様でした。(女・60代)
- ・面白かったです。(30代)
- ・興味深くてのしかったです。(40代)
- ・明るくて楽しい映画でした。(60代)
- ・ユーモアと人の暖かさが溢れたいい映画でした。次も楽しみにしてます。(女・70代)
- ・良くできていました。(男・70代)
- ・とてもよかったです。(60代)
- ・よかったです。(女・60代)
- ・こんな気持ちの良い映画は久方ぶり。(70代)

- ・素晴らしかった。(男・70代)
  - ・シンプルに作品が面白かった。1960年代の雰囲気を感じられた。(40代)
  - ・こんな昔のはじめてみた。おもしろい!! (女・30代)
  - ・ユーモアがあり素敵な映画でした。とても楽しく見せて頂きました。(女・70代)
  - ・とても楽しく観賞しました。(女・70代)
  - ・生活の中のストーリーだったのでおもしろかったです。古さを感じずに観ました。(女・60代)
  - ・中国にも楽しかったです。(女)
  - ・労働の大変さを歌で和らげることがとても素晴らしかったです。(女・40代)
  - ・この時代に良質なコメディがあったことに驚きました。(男・50代)
  - ・今までで二番目によかった(「活きる」が一番)(50代)
  - ・人民公社の映画ははじめてでしたが、昔の中国のくらしがよくわかりました。国策映画ですね。でもおもしろかった。(女・60代)
  - ・とてもおもしろかったです。(女・40代)
  - ・ほのぼのとした気持ちになれました。(女・70代)
  - ・おもしろかったです。(女・40代)
  - ・很有意思。(70代)
  - ・心が洗われるような作品でした。(男・40代)
  - ・おもしろくて、笑いあり、良い人ばかりで良かった。(60代)
  - ・昔の日本映画にもこのようなものがあったような(男・60代)
  - ・とても良かった。(女・50代)
  - ・たのしかった。(男・50代)
  - ・とても良かった。労働と歌の部長が力強かった。(50代)
  - ・良かった。(女)
  - ・面白かった。(男・40代)
  - ・昔懐かしい単純で平和なものでした。(60代)
  - ・上記と同様。半世紀も前のものとは思えないほど新鮮に感じた。(男・60代)
  - ・大変面白く観賞しました。(70代)
  - ・古い作品だったけど笑いの要素たっぷり良かった。面白かったです。(女・40代)
  - ・とても面白い内容で楽しめました!! (女・20代)
  - ・楽しくみました。
  - ・心あたまる作品。(70代)
  - ・よかった。古き佳き時代の心洗われる映画。ああいいう名画(古い)を找出すのが立派。(男・60代)
  - ・笑わせるところは現代でも通じる部分が多く面白かったです。(女・20代)
  - ・わかりやすかったです。(60代)
  - ・好!(男・70代)
  - ・話の展開がはやく、笑いもあってとてもおもしろかったです。当時の景色も楽しめました。(40代)
  - ・とてもおもしろかったです。(50代)
  - ・おもしろかった。(50代)
  - ・おもしろかった。どこで見つけてきたのですか? 62年には電気が通っていないのが日本より遅れてますね。(女・40代)
  - ・めったに見れない年代の中国の風景がみれておもしろかった。(50代)
  - ・コミカルでとても楽しめました。(女・20代)
- b) 字幕に対する感想
- ・分かりやすい翻訳でした。(男・70代)
  - ・わかりやすくてよかったです。(50代)
  - ・ご苦労の様がわかります。(男・80代)
  - ・わかりやすかったです。(女・60代)
  - ・アニメの方もそうでしたが、冒頭の女性のナレーションはですます調の方が良いのでは。(30代)
  - ・上手くお話を伝えていて感心しました。(40代)
  - ・わかりやすくてよかったです。(女・60代)
  - ・昔習った中国語を思い出しました。(女・70代)
  - ・とてもおもしろくて良かったです。(男・70代)
  - ・情景に合う素敵な言葉でした。(60代)
  - ・良かった。最後のセリフは確かに良かったです。(女・60代)
  - ・字幕も画面のテンポにあてており軽妙で気持ち良かったです。(70代)
  - ・数年前と比較すると格段の出来です。とても良かったです。(男・70代)
  - ・見やすかった。素晴らしいと思いました。(40代)
  - ・すごいです!(女・30代)
  - ・良かったです。(女・70代)
  - ・結構でございました。(女・70代)
  - ・わかりやすかったです。(女・60代)
  - ・字幕はとてもわかりやすかったです。(女)
  - ・とても幸せな気分になりました。とてもわかりやすかったです。(女・40代)
  - ・最後の「電気と妻を大切に」お見事でした。(男・50代)
  - ・今までで一番よかったです。(50代)
  - ・じょうずでした。(女・60代)
  - ・位置など訳の内容もよくわかりました。(女・40代)
  - ・わかりやすく読み易かった。(女・70代)
  - ・素晴らしかったです。(女・40代)
  - ・太好了。(70代)
  - ・意味もその裏にあるメッセージもきちんと伝わってきました。(男・40代)
  - ・とても読みやすい。(60代)
  - ・よく吟味されていた。(男・60代)
  - ・正確でした。(女・50代)
  - ・よくできてた。(男・60代)
  - ・よく出来ていました。(男・50代)

- ・内容にあっていて良いと思いました。(女)
- ・よくできていました。(60代)
- ・大変良い中国語の勉強をさせていただきました。頑張ってください。(60代)
- ・とても解りやかって良かったです。(70代)
- ・分かりやすく良かった。(女・40代)
- ・シャレや言葉遊びなどあって訳すのが難しいと思いましたがとても良かったです。(女・30代)
- ・分かりやすい表現で話に入り込みやすかったです。お疲れ様でした!!(女・20代)
- ・東風が欠くといった字幕がありました。意味はどのようなことでしょうか?
- ・よかった。手短かにうまく訳していたと思います。(男・60代)
- ・笑いのポイントもずれずに分かりやすかったです。(女・20代)
- ・もっと広く見るチャンスがあると良いなあと思います。(60代)
- ・うまい。よく工夫されていると思いながら見ました。(男・70代)
- ・真ん中の席だったので前の人の頭で見えないところもありましたが、とてもわかりやすかったです。(40代)
- ・很好!(50代)
- ・少し中国語がわかりました。(50代)
- ・映画によく合っていました。(女・40代)
- ・わかりやすかったです。(50代)
- ・ぴったりでした。字幕の日本語が変だとか、ちがうとか何も思わず普通に見入っていましたよ。(女・20代)

### 7-3. その他のご意見

- ・5~6年(?)前アジアフォーカス映画祭関連の上映会(アジア美術館にて)で上映された中国のアニメーション映画がすばらしく、特に水墨画によるものには本当に感動しました。そういう作品の上映は本当に少なく今回も貴重な機会と思いうかがいました。ぜひ又良い作品を見る機会を作っていただきますようお願いいたします。ありがとうございました。(女・60代)
- ・楽しかったです。ありがとうございました。(60代)
- ・アニメで中国語を学ぶことも楽しいなと思いました。ありがとうございました。(女・10代)
- ・はじめて拝見しました。毎年あっているのは知っていましたがもっと上映してほしいです。2才2人、3才2人、4才1人でおじゃましました。(50代)
- ・字幕は良く出来ていました。(男・60代)
- ・今日は有難う御座いました。これからも勉強頑張ってください!(30代)
- ・毎年見に来たいです。(女・70代)
- ・これからもできるだけ多くのおもしろい作品を日本に紹介してください。そのためにも貴学科の発展を期待

- します。(男・70代)
- ・アニメとアニメの間に少し時間を。(女・60代)
- ・感心しました。(70代)
- ・来年も面白いものを見せて下さい。(男・70代)
- ・すばらしい成果だと思います。(40代)
- ・来年も又伺います。楽しみにしています。頑張ってください。(女・70代)
- ・皆様方のご努力に感謝いたします。毎年楽しみにしております。有難うございました。(女・70代)
- ・とても大変な作業作成上映だったと思いますがおかげでステキな時間を過ごしました。(女・40代)
- ・また素晴らしい作品お願いします。(70代)
- ・毎年よろしくお願いします。楽しみにしています。(50代)
- ・次作品も期待しています。(女・40代)
- ・来年も是非見てみたいです。楽しみにしています。(女・40代)
- ・皆さんの努力に感動しました!(女・40代)
- ・特になし。(男・60代)
- ・古いのもいいですが最近のアニメーションも紹介してほしい。(女・50代)
- ・立派!(男・60代)
- ・これからも頑張ってください。応援しています。(女・20代)
- ・よく頑張っておられると感心しています。来年も見させて下さい。(男・70代)
- ・次も期待しています。(40代)
- ・アンジャッシュ児島さんに似てたなあ♡(50代)
- ・これからも頑張ってください。(50代)
- ・隊長さんと駅長さんの年が気になった。(女・40代)
- ・今日はとても楽しめました。久しぶりに中国語の映像を見て、たくさん笑えてよかったです。もっと若い一般の方にも宣伝が出来ればよかったですと思います。(女・20代)

### 8. おわりに

今回の成果発表会は、諸事情により中国映画のみのラインナップとなった。学科の現状を考えるとこの状況が当分続く可能性もあるが、一方で、前回同様、アジアフォーカス・福岡国際映画祭の依頼により、本学科関係者が当該映画祭で上映される中国と台湾の映画各1本の字幕翻訳を担当することができた。

中国映画は、中国・西寧FIRST青年映画祭のグランプリ作品『殯棺』(忻钰坤監督、2014年)である。作品は9月20日(土)13:00よりあじ美ホールで上映され、満員札止めの盛況であった。字幕翻訳を担当したのは2013年と同様、字幕勉強会に参加していた本学科中国コースの卒業生2名と本学科の教員(甲斐・間)である。

台湾映画は、故宮博物院がプロデュースした劇映画『経過（時の流れの中で）』（鄭文堂監督、2004年）で、キャンパスシティ 13にて9月16日(火)10:00と17日(水)16:00の二回上映された。この字幕翻訳は本学科の教員（間・甲斐）が担当した。

このように、我々の活動が社会に認められ、社会のためにささやかながら貢献できるようになったことはまことに喜ばしい。今後も本学科の卒業生がこのような場で力を発揮できる機会が増えるよう精進していきたいと考えている。

参考資料

一、第6回福大生による東アジア映画字幕制作成果発表会リーフレット

第6回

# 福大生による東アジア映画字幕制作 成果発表会

2014年9月27日(土) 13:30～ (13:00開場)

エルガーラホール7階多目的ホール

〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-2 Tel.092-711-5017

主催 ■ 福岡大学人文学部東アジア地域言語学科

入場無料・申込不要

問合せ：092-871-6631(内線4372) [http://www.hum.fukuoka-u.ac.jp/east/?page\\_id=596](http://www.hum.fukuoka-u.ac.jp/east/?page_id=596)

FACEBOOK : <https://www.facebook.com/fula1999>

後援 ■ 福岡市、福岡市教育委員会、駐福岡中国総領事館

アジアフォーカス・福岡国際映画祭2014協賛企画 (上映はプロジェクター投影です)

## 13:30～ 中国のアニメーション

人文学部東アジア地域言語学科中国コースの2年生は、毎年授業でアニメの中国語のセリフを聞き取り、それを日本語に訳したあと、チームを組んで字幕ソフトを使い、日本語字幕をつけています。その成果をご覧ください。

● 剪纸アニメ

猪八戒スイカを食べる  
《猪八戒吃西瓜》



(2013年度後期授業)

● 人形アニメ

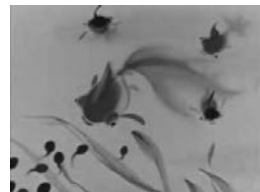
落とし主を捜せ  
《路边新事》



(2011年度後期授業)

● 水墨画アニメ

おたまじゃくしとお母さん  
《小蝌蚪找妈妈》



(2010年度後期、13年度前期授業)

## 14:30～ 中国の劇映画 錦上添花

有志学生が毎週1回勉強会を開いて、中国50～60年代の古い映画に字幕をつける活動も今年で6年目になりました。今年は2年から4年までの学生が力を合わせて1962年に作られたコメディに挑戦しました。お楽しみいただければ幸いです。





## 中国アニメと日本人との縁

問 ふさ子

福岡大学人文学部東アジア地域言語学科中国コース二年次生の選択必修科目「コミュニケーション中国語 I AB」では、2010年から学生のグループワークによる字幕制作を行っている。今年の前期までに、8本の作品の日本語字幕を制作した。

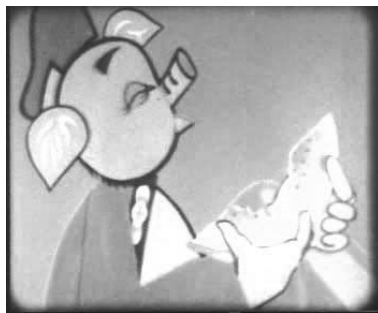
今回のラインナップは、中国アニメの多様性の一端をご紹介できればと思って選んだものだが、改めて見てみると、日本人との浅からぬ縁を持つ作品ばかりが揃った。これは私たちにもちょっとした驚きであり、日本と中国の文化交流の意義や必要性を改めて感じることもなった。

《猪八戒吃西瓜》(猪八戒スイカを食べる)は、1958年に制作された中国初の「剪纸アニメーション」である。

「剪纸」とは「切り絵、切り紙」のことで、中国では古くから民間芸術として発展してきた。この「剪纸」と、これもまた中国に古くからある「皮影戲」(影絵)の技法を組み合わせてできたのが「剪纸アニメ」である。

ご覧いただくと分かるが、「剪纸アニメ」では登場人物は横向きが基本である。これはおそらく「皮影戲」の影響だと思われる。必要に応じていくつかのサイズのもの

を用意し、関節の部分を可動式にして、コマ撮りしていく。背景は、ガラスを2枚用意してそこに貼り付け、前と後ろの距離感を出すそうだ。



この作品を監督したのは万古蟾(1900-1995)で、彼は双子の兄の万籟鳴、弟の万超塵、万滌寰とともに万氏四兄弟と呼ばれ、中国のアニメーションの創始者として知られている。

彼らは、アメリカのフライシャー兄弟が生み出した「ポパイ」や「ベティ・ブープ」に刺激され、まったくのゼロからアニメーションを研究し、1927年に中国初の短編アニメーション映画《大鬧画室》(大いにアトリエを騒がす)(12分)を完成させた。その後1941年には「西遊記」を原作とする中国初の長編アニメ《鉄扇公主》を作る。この作品は日本でも上映され、当時16歳だった手塚治虫にも多大な影響を与えたという。手塚はのちに「ぼくのそんごくう」や「悟空の大冒険」など、西遊記に取材したマンガやアニメを作っており、1980年には訪中して万籟鳴に会っている。ちなみにこの年、中国では「鉄腕アトム」(中国語では《鉄臂阿童木》)のテレビ放映が始まり大人気を博した。日本のアニメが

初めて中国で紹介された記念すべき年である。

《路辺新事》(落とし主を捜せ)は1964年に作られた人形アニメだ。原題は「道ばたの新しいできごと」というような意味で、バス停の近くで25元拾った少年がそのお金の落とし主を捜すうち、別の25元を落とした人に出会い、落とし主と拾い主を捜すことになるというストーリーだ。25元という金額は現在の中国であれば、おそらく昼食1回分くらいだろうが、当時の人々にとっては大金であった。ある資料によれば、上海市のある県(中国では県より市のほうが規模が大きい)1964年の集団所有制企業の労働者の平均月給は38元だったというのであるから、25元は相当な価値だと言える。新しい中国の価値観を宣伝する作品だが、丸みを帯びたユーモラスな人形の造型が説教臭を中和しているようにも思う。

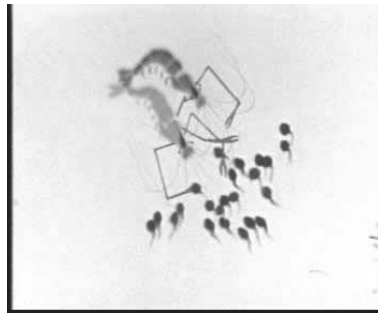


中国各地には古くから「傀儡戲」と呼ばれる人形劇があるが、中国最初の人形アニメも、この「傀儡戲」から発想されたものであった。それは、1947年に作られた《皇帝夢》(東北電影制片廠、26分)で、蒋介石が皇帝になりたがっていると揶揄する内容だ。

このアニメを撮影したのは日本人・持永只仁(1919-99)である。持永は満洲映画協会(満映)の社員だったが、日本敗戦後請われて中国に残り、東北電影制片廠で技術スタッフとして働いた日本人の一人である。当時の中国には、映画技術に習熟した人材が不足していたのである。とはいえ日本人の名前を出すわけにはいかなかったため、彼は「池勇」(「持永」の中国語読みと同音)という中国名でクレジットされている(ただし「方明」という中国名の方が有名)。

彼はその後上海に移り、そこで上海美術制片廠の前身である上海電影制片廠美術片組の一員としてアニメ制作を続け、1953年に帰国した。彼のもとで、その後の中国のアニメ界を背負って立つ人々が多数育った。この《路边新事》(落とし主を捜せ)を監督した王樹忱(1931-91)もその一人である。

《小蝌蚪找媽媽》(おたまじゃくしとお母さん)の原題は「おたまじゃくしがお母さんを捜す」という意味だが、これは1960年に作られた中国初、すなわち世界初の「水墨画アニメ」である。この作品はご存じのかたも多いと思うが、何度見てもあきない傑作だと思う。内容はタイトルのおとおり、おたまじゃくしたちがお母さんを捜していく物語である。おたまじゃくしを始め、金魚、エビなど、アニメに登場する動物の造型は中国の著名な画家・齊白石(1864-1957)の作品から取られている。



齊白石は自ら画工を以て任じた庶民派の画家として有名だが、彼が国際的に知られるようになったのは、1922年に東京で開催された日中共同絵画展で注目されたことがきっかけであった。

水墨画アニメは「線描、平塗り」というアニメの定石を覆し、ぼかしや墨の濃淡を表現した画期的なアニメーションで、中国では国家一级保密密術の認定を受けている。齊白石の描く小動物はとくに独特の味わいがある。それが水墨画のタッチそのままに生き生きと動く様子はまさに一見の価値がある。この作品で撮影を担当し、その後《牧笛》(63)、《鹿鈴》(82)、《山水情》(88)など水墨画アニメの傑作を発表した段孝萱(1934-)もまた持永只仁の愛弟子であった。

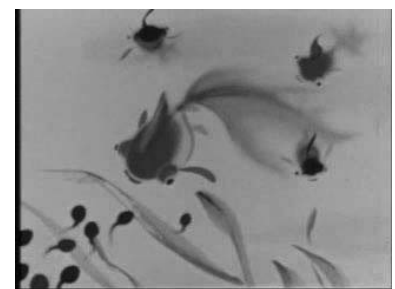
水墨画アニメの誕生は、1960年に当時の副総理・陳毅が「もし齊白石の絵を動かせたらすばらしい」と言ったことがきっかけだというのが中国では定説となっている。一方、持永は自著の中で、1951年に中国の若いアニメーターに「鳥羽鳥獸戯画」と齊白石の画集の中の蝦の絵を見せて、毛筆で書かれたこれらの絵をアニメにして動かすことができるのではないかと語ったと書いている。もしかしたら

段孝萱たちは、陳毅の言葉を聞いて持永のアイデアを思い出したのかもしれない。

このように今回上映する中国のアニメーションは、どの作品にも日本人との浅からぬ縁がある。日本と中国の関係が決して平穏ではなかった時代に、先人たちが互いに尊敬しあい、教え合い学び合う中で生まれたこれらの縁は、今を生きる私たちに多くのことを教えてくれている。

#### 参考文献

- 鮑濟貴主編『中国动画電影通史』中国美術出版総社、連環画出版社 2010年  
持永只仁『アニメーション日中交流記 持永只仁自伝』東方書店 2006年



## 《錦上添花》の中の歌と 修辞

甲斐 勝二

私たちはこれまで学科の課外授業として 1960 年前後の中国映画に字幕を付けた作品を皆さんに見ていただけてきました。おかげさまで、福岡国際映画祭では昨年卒業者が中国の中国西寧 FIRST 青年映画祭から送られてくる当代作品の字幕付けに関わることになりましたし(去年は『目撃者』今年『殞棺』)、また今年台湾映画『経過』の字幕作りにも参加できました。短期間に 50 年も違う映画を見比べますと、素人の私でもあちらこちらに「映画」というものの大きな変化を感じます。

ここでは、60 年代前後の映画にしばしば現れる「歌」について少し書きましょう。一昨年上映しました『村の若者たち』では、発電所作りのために皆を一つにまとめるものとして合唱の場面が出ていました。今回上映する『錦上添花』にも同様の作用を持つ歌が登場します。田舎の小さな駅の駅長の「解決さん」が唱う材木運びの労働歌などは、荷物運びに参加する人々の足取りを整える上でとても重要な作用をしています。着任したばかりの主人公、音楽学校出身の段

志高の歌では、運び手の歩調を合せられず失敗してしまいましたが、これはその土地の労働状況に不慣れだったからです。



この映画ではまじめな労働歌の他に、個人をからかうような即興の歌も織り込まれています。このような歌は、これまで我々が上映した映画には無かったのではないのでしょうか。その中に若い娘の鉄英が、粟の収穫の最中、生産隊長の胖隊長をからかって以下のように唱う所があります。

A: あわの穂は太い／あわの穂は長い／あわの畑には／太ったおばさんがいる／仕事も熱心／暮らしも立派／でも彼女には／足りないものがあるんだよ／あの老海棠が足りないの

(隊長、老海棠って誰?)

B: 八月 瓢箪が実れば／中には種ができてい／何も言わなくても／考えはちゃんとできている／彼女は黙っているけれど／心の中には／もうできている／大きな羽が／できている／どこへ飛ぶのか／尋ねてみれば／すぐそこの／すぐそこの あの駅に／飛ぼうとしてるんだよ

この歌の面白いところは、最初の句に例えば今の様子や誰もが知る内容のものを列べ、その様子や内容から起こるであろう連想から実際に言いたいことへと導いていくような技巧を見て取れることです。つまり A では豊かな体格の胖隊長を導くために粟が太く長く豊に実った様子を歌うことから始め、B では瓢箪がその中にたくさんの種を実らせるありさまを挙げて、彼女の胸の内の有様—つまり何も言わなくても彼女の胸の内ではちゃんと決まっていることを導く技法です。こういった歌作りは、実は古くは『詩経』という数千年前の詩を集めたとされる古代詩集にまでさかのぼれますし、現在でも例えば西部地区に歌われる「花儿」等の民間歌謡に残っています。雲南の歌垣にも出てきそうです。修辞学ではこの技法を「比興」法とか「起興」法等として分類していて、鉄英の即興の歌ではあっても、伝統的な民間歌謡の形式を踏まえたものとなっています。連想の豊かさも物語るものでしょう。

実はこの歌には、もう一つ修辞技巧がありそうです。というのは歌の中に季節外れの「老海棠」の語が出てくるからです。「老海棠」の「老」は親しみの感情を示すもの、「海棠」の花はご存じのように紅梅のように可

憐な紅の花をつける木で、女性の譬喩としてはふさわしいのですが、ここでは胖隊長の意中の人である中年男性の駅長さんを指しています。Aの歌を聴いた別の娘が「隊長、老海棠って誰？」と尋ねると、Bの歌が歌われることからわかります。海棠は春の花ですし、男性的な花だとも思われませんので、海棠の譬喩として、あの髪も毛も薄そうな中年の駅長さんを連想しろというのは些か難しい。まさか、花の咲いていない枝葉の海棠だと言うわけではないでしょう。何事にも積極的な若い娘さん鉄英の譬喩なら合点もいきます。しかしながら、秋の収穫の歌の中にわざわざこの言葉を出し、しかもそれが誰とか尋ねた娘も、実は駅長さんを指していると知っているようですので、どうやら「老海棠」と聞けば、みな駅長さんを連想しやすい要素がそこにある気配です。

では、その要素は何でしょう。それは言葉の声調の類似ではないかと考えています。ご存じのように中国語には上がり下がり声調が幾種かあります。普通話では「老海棠」の声調は数字にすると「2 3 2」となります。一方駅長のあだ名は「老解決」で、その声調は同様に「2 3 2」となります。つまり声調だけなら同じ並びですので、そ

の類似を結び目として「老海棠」から「老解決」が連想され、状況から駅長を指すと誰もが理解できたのではないのでしょうか。歌ですので声調は関係ない、ともいえそうですが、歌の中では声調は消えても、その意味が認識されればその言葉が声調と共に再現されるはずですよ。



歌というものは様々な技巧を凝らしながら作られるものでしょう。特に暗示や風刺、あてこすりやかからかいなど、示唆される言外の意味こそ大切というものであれば、様々な要素を用いて歌を作るでしょう。またそこに意外性や滑稽さの効果が発揮されるわけです。中国語の場合言葉の重要な要素である声調の類似を使った暗示方法があつて不思議だとは思いません。ひょっともう既に修辞法として分類されている可能性もあります。

もっとも、「老海棠」で男女を問わぬ「意中の人」の譬喩だという用例や証明があれば、この考えは吹き飛んでしまいます。

修辞法の件も含めて皆様の御指正を願う次第です。

(福岡大学人文学部東アジア地域言語学科)

## 映画『錦上添花』について

間 ふさ子

映画『錦上添花』は1962年に北京電影制片廠が初めて作った喜劇映画である。題材的には、職場もの+農村もの+恋愛ものだと言えるが、この恋愛が若い男女のそれではないところがこの映画のユニークなところだ。

私たちの勉強会では、最初の年の『白毛女』を除きいずれも「喜劇」映画に字幕を付けてきた。だがこれらの「喜劇」映画は、ギャグ、ドタバタ、風刺などの要素が排除されたもので、厳密には喜劇映画とは言えないかもしれない。中国では当時、映画は娯楽であることの前に教育・宣伝の手段だとみなされており、ギャグや風刺は当時の社会体制においては人をマイナスに導くものとして批判の対象となりかねなかった。登場人物や映画に描かれる状況を「笑う」ことは非常に危険なことだったので。

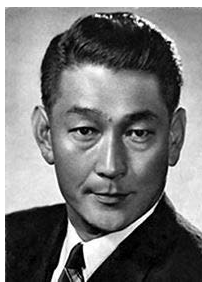
その危険を回避するために当時の「喜劇」映画がもっぱら使用した技法は、善意や熱意に基づく「誤解とすれ違い」である。2011年の成果発表会で上映した『今天我休息(本日非番)』(1959)もこの技法を用いていた。



今回上映する『錦上添花』も同様に「誤解とすれ違い」の技法を運用したものだが、いわゆる「スラップスティック」的な要素もちらりと見えているのが珍しい。それは映画の終盤近く、川べりで、逃げる胖隊長（人民公社生産隊の太った隊長の意、字幕では「隊長さん」）を老解決（字幕では「解決さん」）が追い、それを秦広播（字幕では「秦放送」）が追っていき、その数分後、同じルートを逆方向に、今度は走る老解決を秦広播が追い、胖隊長が秦広播を追うというシーンだ。どうしてこの「追いつ追われつ」があるのかは、映画を見ていただくことにして、これはまさに、当時の中国映画には絶えてなかったはずのドタバタである。

監督、脚本の双方にクレジットされているのは謝添と陳方千である。とくに謝添(1914-2003)は、この『錦上添花』を始め喜劇映画を多数監督しており、俳優としても有名なことから「中国のチャップリン」と呼ばれていた。本人もチャップリンを非常に敬愛していたという（だが俳優としての彼は、実は喜劇には一作も出演していない。彼が主演したのは、日本でも公開された映画『林家舗子』（邦題「林商店」、水華監督 1959）、『老人<sup>ママ</sup>與狗』（邦題「犬と女と刑老人」

謝晋監督 1993）など、すべて悲劇である）。



謝添

謝添を始め、この映画はスタッフも主要キャストも 1949 年の中華人民共和国成立以前から演劇活動に従事していたベテランばかりだ。

駅長の老解決を演じた趙子岳(1909-1997)は若い頃教員をしていたが、日中戦争勃発後に演劇活動を開始し、主に山西省の舞台で活躍していた。1950年に山西省でロケが行われた映画『吕梁英雄』で農民役を演じたことがきっかけで北京電影制片廠に移動になり、数多くの映画に出演したが、ほとんどが脇役（しかも悪役）で、主演を演じたのはこの『錦上添花』のみである。

生産隊の胖隊長を演じた凌元(1917-2012)は、若い頃満州映画協会に所属し、本名の張敏で多くの作品に出演した。とくに「老け役」を演じることが多く、20歳で初めて映画に出演した時も主人公の母親役だった。日本敗戦後 1946年に東北電影制片廠に入り、1951年から北京電影制片廠に所属したが、やはりそ

こでも母親役を多く演じた。『錦上添花』の胖隊長というキャラクターはそれまでに演じたことのない役どころだった。中年の男女の恋愛は不道德ではないかと思われて、なかなか思い切った演技ができなかったが、謝添監督に助言され度胸を決めたと凌元は回想している。その意味で彼女が芸域を広める転機となった作品である。

自ら志願して駅の職員になる若者・段志高を演じたのは、当時すでに喜劇俳優として有名であった韓非(1919-1985)である。北京生まれだが上海で青年期を過ごし、舞台や映画に出演した。名前が知られるようになったのは、1947年に張愛玲が脚本を書き、桑弧が監督した大ヒットコメディ『太太万歳』（奥様万歳）に出演してからである。1949年には上海を離れ香港に行き、そこで映画出演を続けた。1952年に再び上海に戻り多くの作品に出演したが、とくに『錦上添花』を含む一連の喜劇映画が人気を博し、「喜劇大師」と呼ばれた。『錦上添花』出演当時彼は 43 歳で、若者とは言えない年齢だったが、新人の李長楽(1938-)を相手に奮闘している。

この映画は、謝添監督が中国の東北部で見た駅をモデルにしており、実際の撮影は河北省興隆県六道子駅と北京郊外の十三

陵ダムで行われた。そのため、登場人物たちが話す言葉には北方方言がたくさん登場する。例を挙げると以下のようなものである。

・我没法通呀,就凭我这身子骨,我这精气神,老解决愣让我退休。

(納得できっこないよ、私のこの体つき、気力を以てしても、解決さんは何が何でも引退しろと迫るんだから)

**身子骨:** 身体、体格

**精气神:** 精神力気

**愣:** 说话做事不考虑对不对地

・我们正在念叨你呢。(ちょうど君のことを話していたところだ)

**念叨:** 谈论、商量

・你看咱们站上多咱出过这种笑话。(おいおい、うちの駅でいつこんな馬鹿げたことが起こったというんだ)

**多咱:** 什么时候

・我说您这脾气呀,真够拧的。(あんたのその性格だって、十分に頑固だよ。)

**拧:** 倔强、执拗

・闹了半天敢情是这么回事。(大騒ぎしておいて、なんだそんなことか)

**敢情:** 原来

こういった口語は私たちが日本で学ぶ中国語(普通話)の教科書には基本出てこないが、北京の街頭などでは耳にすることがあるはずだ。日本にいな

ながら、このような言葉づかいに触れることができるのも映画を使った勉強の妙味である。

昔の中国映画は大体 90 分から 100 分くらいが平均的な長さだが、この映画は 71 分と若干短い。だがネットにアップロードされているのもすべて 71 分なので、今はこの版しかないと思われる。ただ少し話が飛んでいるように感じる部分もあり、もしかしたら完全版ではないのかもしれない。『白毛女』にも同様の現象があったが、文革前に作られた映画はほとんど批判された過去を持ち、この作品も例外ではない。そのためネガの一部が失われている可能性もありそうだ。凌元の回想によれば、1962 年に北京電影制片廠が制作した映画はいずれも完成が翌年にずれこみそうだったため、当時の廠長だった汪洋がその年の生産計画を完成させるため、12 月までに出来上がる映画を謝添に作らせたということだから、もともとそれほど長い映画ではなかったのかもしれない。

小品とはいえ、1963 年 1 月 25 日の封切からわずか 5 日間で、北京だけで 169 回の上映、観客動員数はのべ 14 万人を超えたとされている。昨年私たちが上映した『我們村裡的年輕人続集(続村の若者たち)』でも、中年世代が若者の自由恋愛につ

て以下のようなやりとりをしていた。

A: 恋愛くらいわしにもできるさ

B: え?

A: 簡単さ/まず山と川がある場所を探すんだ/そこで女性が笑いながら逃げて逃げてー/男が追って追って追いかける/追いつけば一丁あがり

A の妻: 何よそれ

A: 映画で見たのさ/大体こんなもんだぞ

『我們村裡的年輕人続集』は 1963 年に作られた映画であるから、これは明らかに『錦上添花』のことを指している。わずか三か月で撮られた 70 分余りの作品だが、当時の人々に如何に歓迎されたか、このエピソードからもよくわかる。作品の中に繰り返し出てくる言葉の通り、「麻雀雖小、五臟俱全」(スズメは小さいが五臟六腑すべて揃っている)の映画、それが『錦上添花』である。

(福岡大学人文学部東アジア地域言語学科)

参考資料

《電影往事》

[http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_4986093d01009j02.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_4986093d01009j02.html)

《電影傳奇 逗你玩兒》DVD 北京京文唱片傳播有限公司 2005 年

# 錦上添花を楽しむために! 私たちが調べました!



おのっぺ  
ナメ、担当  
ニム、担当

小野沙也香  
Presents\*

人民公社とは??

人民公社は、それまでの高級農業生産協同組合が郷、行政権を単位に合併し、1958年の秋に全国的に成立しました。中国型社会主義の典型といわれるほどの、重要な経済社会の構成部分でありました。人民公社の特色は大きく分けて3つあります。

1つ目に、「政社合一」つまり、経済面や生産面だけでなく、政治・軍事・教育・保健などの行政が一体となっていたことです。

2つ目に、人民公社は大きくて公共性のある「二大二公」と言われるように3000戸前後の規模を持ち、また集団的な共有制は、国家との関係を深めて、公的な性格を濃くしたことです。

3つ目に、単なる任意の農民の経済的集団というわけではなく、農村の社会組織であり、共産主義への移行の最良の形態とされていたことです。社会組織であるために、もとの土地の地主や富農は農業生産協同組合の時のように組織の外側にいるのではなく、人民公社員である中農や貧農とともに、同じように労働し、そして報酬を受取るすることができます。

しかし、もとの土地の地主や富農は、なかなか正式の人民公社員にはなれず、幹部に選ばれることも難しいのです。人民公社は大規模であるため、その運営を公社管理委員会、生産大隊、生産隊の三級管理体制によって行います。

中間管理機構である生産大隊は、500戸ほどの農家の区域の単位であって、もとの高級農業生産協同組合の区域に該当します。生産隊は、30戸ほどの農家の区域の単位で、もとの初級農業生産協同組合の区域に相当し、人民公社の労働の単位です。

1959年から人民公社の整理活動を始めて、三級管理体制は三級所有制によって裏うちされるようになりました。この三級所有制のもとで生産隊は土地の集団所有の単位、そして生産大隊は水利などの生産施設の所有単位となり、人民公社管理委員会は農業機械製造、修理工場や農産物加工工場を管理します。生産物の分配は生産隊を主に単位として行われます。

文化大革命の中で、革命委員会が成立したのち、集団農業は強化され、化学肥料製造や農産物加工などの近代的工業を人民公社の力で建設する動きが始まりました。

劇中に登場する「隊長さん」は、この生産隊の隊長のことであります。

- (参考文献)
- <単行本> 園田茂人『不平等国家 中国』中公新書 2008年
  - <インターネット> 三省堂 大辞林 (2014年9月10日閲覧)
  - ニューワイド学習百科事典 (2014年9月10日閲覧)
  - 中国と時代背景 (2014年9月10日閲覧)



中国の鉄道について





# 中国の水力発電事情

# 白水明里

Presents



昨年から続けて2回目の字幕制作に参加しました。昨年は週一回の勉強会で、なかなか上手に訳すことができませんでしたが、今年は役者さんそれぞれの気持ちや考えから訳すように心がけました。古い映画なので難しい表現や歌には苦労しましたが、訳を進めていくにつれこの映画の面白さが分かり、自然とその場の訳ができるようになりました。

今回もたくさんの試行錯誤をしながら1年間字幕付け作業をやってきました。ご覧になる皆さん楽しんでもらえる映画になっていたらとてもうれしいです。

ここで当時の水力発電事情を簡単に説明します。

この映画でみんなが熱心に取り組む水力発電。なぜ熱心に水力発電をするかということ、大工業の発展、農業の機械化、電化を促し、生活水準の向上にとっても役立つからです。火力発電では高くつくし、石炭消費が甚だしくなる。それに対し、中国は水量の豊富な河川が全国平均に分布しているの、水力発電すれば電力難を解決しうるばかりでなく、発電コストも25%がた引き下げられるという利点が多いことが影響しています。1949年の中華人民共和国建国後、毛沢東と共産党中央の指導の下、中国の社会主義革命と社会主義建設の急速な発展に伴い、小型水力発電所建設の機運がつつぎと盛り上がりました。1956年から中国の農業協同化の高まりの中で、各地の人民公社、生産大隊が依拠して小型水力発電所の建設は積極的に進められました。

この映画が製作された1960年代は水力発電ブームの真っ只中であり、水力発電がこの時代の国情に合ったもののだといえます。この映画では水力発電に使用するモーターをめぐる駅長と隊長のやりとりが見所ですが、そのきっかけとなった水力発電が成功すれば、二人や駅の人々の生活に花を添えることができますね。

(参考文献)

- 「中国の水力発電建設事業」『アジア経済旬報』321号、1957年4月20日
- 「中国農村の小型水力発電所の発電量大幅に伸びる」『アジア経済旬報』859号、1972年4月

今回のこの作品は、河北省にある小さな駅が舞台となっています。そこで私は、中国の鉄道について少し調べてみました。

中国では、1945年に中国長春鉄路公司という会社が設立されました。その後鉄道部となり、様々な部門に統合されたりあるいは独立したりしながら鉄道整備を行ってきました。この中国国内の鉄道整備には、鉄道網整備による中国全土にわたる人的・物的流動の障害の解消、そして、鉄道整備にかかわる様々な経済効果によるGDP成長の底上げという、2つの国策上の重要な目的がありました。2000年以降は諸外国の技術供与により高速鉄道の時代へと変わり、2008年には、鉄道輸送に関する「中长期鉄道網計画」(横の図を参照)が作られました。この計画では、まず一つ目に、全国の鉄道営業距離を100,000kmまで延長すること、二つ目に、複線化率及び電化率が50%を達成すること、そして三つ目に、旅客専用線(約1万2,000km)を整備することにより、輸送量が困窮している都市間鉄道の一部区間において貨物輸送と旅客輸送とを分離すること、の3つが目標に掲げられました。旅客輸送力を増強するための整備を行い、現在では、期間内での目標を上回る9万1,000kmの高速鉄道が2010年3月時点で開業しています。しかし、このように鉄道網が拡大し便利になっていく一方で、鉄道部長が汚職により解任される問題や、高速鉄道での多数の死者を出す追突事故や脱線・転落事故の発生、そして上の図でも分かるように鉄道網密度の東西問題など、様々な問題が上っています。

今回この『錦上添花』という映画で、小さな駅でもしっかり働く駅員たちの様子や、村の発展のために水力発電を成功させようと協力する村人たちの姿を見て、村や国全体が発展しても人々の心は変わらずに真っ直ぐであり続けなければならないと感じました。私も映画中の登場人物たちの温かい心に触れて、自身の生活や態度について改めて考える良い機会となりました。今年も字幕制作活動に参加できて本当に良かったです。

(参考文献)

[http://www.itej.or.jp/assets/www/html/archive/jiyou/201201\\_00.pdf?search=1960%E5%B9%B4%E4%BB%A3+%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E4%BA%BE6%B0%91%E6%94%BF%E5%BA%9C%E9%89%84%E9%81%93%E9%83%A8](http://www.itej.or.jp/assets/www/html/archive/jiyou/201201_00.pdf?search=1960%E5%B9%B4%E4%BB%A3+%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E4%BA%BE6%B0%91%E6%94%BF%E5%BA%9C%E9%89%84%E9%81%93%E9%83%A8)

<http://image.baidu.com/i?ct=201326592&cl=2&lm=-1&nc=1&ie=utf-8&tn=baiduiimage&pv=&fm=rs2&word=%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E9%93%81%E9%81%93%E7%BA%BF%E8%B7%AF%E5%9B%BE>





# 字幕制作を終えて... みんなの感想★

大家好！欢迎大家来参加这次中国电影字幕制作发表会。

我们终于在今年也迎来了这一天。我从二年级的时候开始参加字幕制作，如今已经是第三次了。想到今年可能是最后一次参加的时候，心里会感到有些伤感。但我觉得参加这个活动是对的。

今年的电影《锦上添花》和我以往参加的相比，影片时间比较短，所以我们能有比较充足的时间制作字幕。为此我们每周进行一次学习会，通过多次观看对映像进行确认翻译，大家在集训的时候不惜花费时间一起讨论，对我来说这是一段非常有意义的时光。

这次的电影里让我留下最深刻印象的是站长老解决追赶生产队长胖队长的场景。在去年的电影《我们村里的年轻人·续集》里孔阴阳说：“那恋爱的时候要找个有山有水的地，女的笑着在前面跑跑啊地跑，男的在后面追啊地追，后来就追上了，后来就成了。”他还说：“我在电影上看的。”这部电影是在1963年制作的，而这次的电影《锦上添花》是在1962年制作的。这么说，我觉得他说的电影是这次的电影《锦上添花》本身。其实事前老师已经把这件事告诉了我，我第一次看《锦上添花》的时候认为“就是这个场面的事！”

这次的电影非常有趣，也有很多搞笑的地方。我们将字幕加入其中，传达这份乐趣，如果大家享受到这部电影的乐趣，我会感到非常幸福。最后我要向间老师、甲斐老师、以及一起进行字幕制作的同学们表示感谢。谢谢。



字幕制作  
総司令塔★!!  
ねえさん!

No.1

種村 理恵



(みなさん、こんにちは！今回の字幕制作発表会にお越しいただきありがとうございます。)

いよいよ今年もこの日を迎えました。2年生の時から参加しているこの字幕制作も3回目となりました。今年が最後の参加かと思うと寂しくなります。そのぐらいこの活動に参加してよかったと思っています。

今年の映画『锦上添花』は私が参加したこれまでに比べ、作品の時間が短かったこともあり、比較的余裕を持って字幕制作ができたのではないかと思います。そのため、週一回の勉強会でも映像を何度も見て確認することができたり、合宿でも時間をかけてみんなで検討できたりと、とても有意義な時間を過ごすことができました。

私が今回の映画の中でいちばん印象に残っているのは、駅長の解決さんが生産隊長の隊長さんを追いかけるシーンです。昨年の映画『我們村裡的年轻人·续集』の中で孔陰陽という人が、「恋愛は山と川がある場所を探して、女が逃げて逃げて逃げるのを男が追って追って追いつくことができようまくいく」と言っている場面がありました。しかも「映画で見た」と言っています。この映画は1963年に制作されたものであり、今回の映画『锦上添花』は1962年に制作されています。ということは、孔陰陽が言っている映画とは今回の映画そのものだと思います。実はこの話を先生から事前に聞いていて、初めて『锦上添花』を見たとき思わず「この場面か！」と思ったものです。

今回の映画はとても面白く笑いどころ満載だと思います。私たちがつけた字幕によってその面白さがより伝わり、皆さんに楽しんでいただければ幸いです。最後に、間先生、甲斐先生、そして一緒に字幕制作に携わってくれた仲間们に感謝したいと思います。ありがとうございました。)



私は映画がとても好きで、最初に字幕映画の上映会があることを知った時は観客として観に行くだけの予定でした。しかし、間先生に勧められてこの合宿に参加させていただきました。日本語の字幕は先輩方が訳したものが既にあると聞いていたので、私は合宿ではその字幕を入力するだけなのかなと思っていました。しかし、実際に合宿に参加してみると確かに日本語訳はあるものの、そこからまた規定の字数で訳を直すという大変な作業であるを知って心配しました。

以前から個人で洋画を見る時に、台詞と字幕の言い回しは少しニュアンスが違うなど感じることもありました。それは翻訳家の方が観ている人に読みやすく、かつ内容を分かりやすくするためだからだということ、また、この作業には外国語と日本語の豊富な語彙力が必要であることを、この合宿で初めて知ることができました。

私はまだ中国語はほとんど分からないし、初めてのことで戸惑ってしまい、何もできずこの字幕制作にきちんと貢献できなかったことが心残りです。しかし、一年生のうちからこの活動に参加していれば、語学の勉強のモチベーションも上がるし、次に参加する時戸惑わずに済むので良い経験をしたなと思いました。休憩時間でも皆さんと一緒に過ごすことができとても楽しかったです。これからしっかり勉強して語学力に身にかけて、次の合宿では自分の意見を言いたいです。さらに洋画だけでなく中国や韓国の映画もいっぱい観ていきたいです。

No.2  
**田代 菜穂**

私にイキなさい!!



字幕界に新星現れる?!



字幕制作合宿に参加して  
今回、本当に只参加するだけの形で字幕制作合宿のメンバーに加えて頂きました。中国や翻訳に興味があるというだけで何となく参加しましたが、先輩方の字幕制作に真摯に向き合う姿を間近で見られ、とても有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。合宿では3日間、限られた秒数と文字数の中でベストな台詞回しを探していく作業が延々と続きました。今回の「锦上添花」という作品は上映時間約70分と、例年より少し短めの映画とのことでしたが、一から字幕を考えという作業は大変であることに変わりはありません。作業中の先輩方がお互いに意見や考えを言い合っている姿がとても印象的でした。このような貴重な経験が出来たことに感謝したいです。今年は何も出来ませんが、来年は是非初めからこの翻訳作業に携わってみたいと思いました。



No.3  
**花田 優香**



私は約三日間の間、手探り状態ながらも字幕推敲のやり方やコツを先輩や先生方から多く学ぶことができました。参加する前、二年生からの参加が多いと聞いていたので先輩方に加わって制作していくことに不安を感じていました。しかし、急に推敲案を搾り出すというわけではなく、先輩や先生方の意見を聞きながら徐々に流れやコツを掴んでいく形だったので、一年生にとっても十分に溶け込みやすく、有意義なものに感じました。

私は今回、作中のたった一言の推敲にしか貢献できなかったのですが、今後はもう少し視野を広く持ち、頭を柔らかくして考えてみる、という課題を得ました。ただその反面、その一言がとても印象強く残り、深い達成感も同時に得られました。自分の案が通った時の自信が、次のアイデアの発見の後押しになってくれるので、とても楽しかったです。

映画を区切りながら流して推敲していくので、字幕こそ日本語ですが、音声はもちろん中国語です。そのため、今まで習ったところや知っている単語、文法などが使われていて、それが聞き取れたときは自分の語学力が少しずつでも成長しているということを実感できて嬉しかったです。ただやはり、まだまだ経験が足りないから、先輩方が「ここは原文だと言っているから、こうの方がいい」など、的確で細かい文法の指摘をされているのを見聞きしながら学ばせていただいたりもしました。



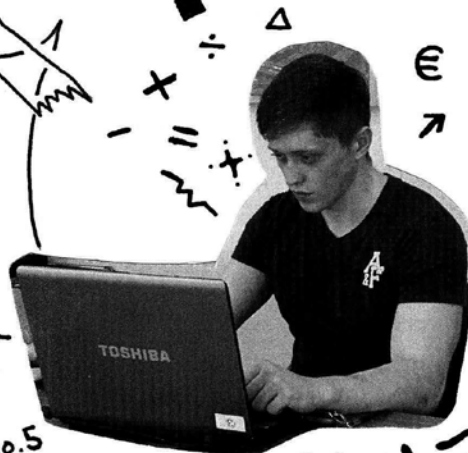
4月から初めて字幕勉強会に参加しました。日本語は母国語ではないので中国語から日本語に訳するのが大変でしたが、自分にとっていい経験になり、日本語と中国語の語学力も同時に上がりました。これからもこの経験を活かし、向上心を持って頑張っていきたいと思っています。



また、登場人物が多く、音声や字幕だけだと区別がつかないように最初は感じましたが、推敲の段階で、登場人物それぞれの「個性」をセリフでいかに表すか、という工夫がされており、そういった違いや変化も楽しむことができます。今回の作品は登場人物の多くにつけられる「あだ名」も見所ですが、それを日本語風に言い換えて表現するのはとても難しく感じました。近くの国であっても文化や言葉が少し違うだけでこんなに悩まされるものなんだ、と強く思います。

今回は一年生として夏休みの合宿からの参加だったので、すでに先輩や先生方が日本語訳を終わらせているものを更に映画のセリフらしくする、といった中国語というより日本語力を問われるような内容でしたが、それでも十分異文化理解に繋がるものが多くありました。来年、同じような機会があればまた再び参加し、今度は中国語を日本語らしい日本語に訳す、といった新たな課題に挑戦していきたいと思います。

微力ではあるものの、今回の『錦上添花』の映画字幕制作に携わることができて本当に良かったです。この経験を今後の授業や交流にも活かして頑張ります！





私は、字幕合宿には参加できなかったのですが、日本語訳、初稿制作、役柄別推敲の作業をしました。日本語訳は、活字に起こされた中国語のセリフを日本語で直訳する作業です。私は中国語の文の句切れを間違えて、何度か訳を間違えてしまいました。中国語を日本語に訳す際には、文のまとまりを正確につかむことが重要であることを改めて感じました。初稿制作は中国語を日本語に直訳した文を、限られた文字数に収めて実際に映像に字幕をつけていく作業です。少ない文字でセリフの要点を正確に表現しなければならないので、とても頭を使いました。役柄別推敲は、登場人物の口調などを合わせる作業です。特に語尾には注意して確認をしました。また、アジアフォーカス福岡国際映画祭の記者発表会で成果発表会の PR をさせていただき、とても貴重な経験となりました。今回上映する作品はコメディとアニメーションなので、たくさんの方々に見て、笑って、楽しい時間を過ごしていただければ幸いです。

私は去年から字幕制作活動に参加しているので、今回は二本目の作品となりました。やはり二本目の作品ということで、参加当初よりは活動に慣れ、日頃の活動や作業などはスムーズにできた面もありました。しかし、二年目といえ合宿での字幕付けの難しさには悩まされました。

まず、今回の作品における登場人物の名前です。作中にあだ名で呼ばれる登場人物が何人か出てきます。これを字幕にする時にどのように訳すか、文字数は増やせないけれど意味が伝わるようにしたい。また、映画の中で登場人物たちの話がこじれる部分がありました。これも、日本語に訳す上で苦労しました。中国語で、「彼女」という意味の「她 (tā)」と、「それ」という意味の「它 (tā)」は漢字で書くと違うのですが、発音が同じです。発音が同じゆえに話がこじれるのですが、見ている方に話しが伝わる訳を付けるのに工夫が必要な部分でした。しかし、恒例の合宿では一年生から四年生までが様々な意見を出し合い、解決できたのではないかと思います。

今回もこのように字幕付けをするうえで困難な部分はありましたが、今回の映画《錦上添花》は、昨年の作品より時間的に短い映画だったので、字幕合宿では余裕を持ってひとつひとつの場面を検討することができたのではないかと思います。それゆえ、観客の皆さまに楽しんでいただけるような、より良い作品が出来上がったと確信しております。

私は、四年生ということで次回の作品は完成まで携わることはできません。今回の作品が最後まで携わることができる作品となりました。この活動に参加することによって私はより有意義な学生生活を送れました。参加するきっかけを与えてくれた先生方、先輩方には大変感謝しています。必ず次回の作品も後輩たちが素晴らしいものに仕上げてくれると信じています。来年はぜひ観客の一人として、後輩たちの頑張りを見守っていきたくと思っています。





大家好！（皆さん、こんにちは！）  
 我非常感谢各位来到今天的上映会！  
 （本日は上映会にお越しいただき、ありがとうございます。）

私は、この字幕制作の活動に参加させて頂く中で、改めて中国語と中国映画の面白さに気付くことができ、多くの収穫があったと感じました。

例えば、私が特に興味深いと感じたことは、「中国語の言葉の裏を読む」ということです。この映画の中で主人公の段志高が熊に対して「请坐啊,坐坐坐(座って、さあどうぞ)」というセリフがありますが、この文章を直訳すると「座って下さい、座って座って」となります。この「坐坐坐」には敬語を含む意味はありませんが、私たちは「さあどうぞ」という丁寧な表現の訳を付けました。これは映画の中に出てきますが、熊はおもてなしをされるのが好きという理由があったためです。普段、私は中国語を訳すときは、ただ自分が解釈できるように直訳ばかりをしていましたが、今回、先生方や何年も字幕制作に携わっているメンバーの意見を聞いて、「なるほど、型にはまってただ言葉を訳すのではなく、きちんとその場面の状況を踏まえた訳作りが大切なんだ。」と字幕制作の難しさ、面白さに気付いたことが最も印象深かったです。この映画の字幕付けには、他にもそのような工夫点がありますので、ぜひ注目して観て頂きたいです(^\_^)

他にも私が個人的に感じるこの映画の見所は、所々に登場する「歌」です。その歌の場面になる度に、非常にワクワクする気持ちになりました。“强劲”（力強い）“开朗”（明るい）“爽快”（さっぱり）というワードがよく似合う歌ばかりです。登場人物の歌唱力も素晴らしく、聴いていて非常にのびのびとした、明るい気持ちになります。ぜひ今日お越しいただいた皆様にも共感して頂けましたら嬉しいです！

そして最後に、今回の字幕制作にあたり、間先生、甲斐先生、1～4年の愉快的なメンバーと楽しく字幕制作の時間を過ごせたことに感謝したいと思います、本当にありがとうございました！

♪ オラに勇氣と柿ピーを!!

No.8  
 三田村

康夏



No.9  
 武藤 豊

まんちゃん♡

冷やし中華 →



キマッタわ...+

大学2年生から字幕制作活動に参加していますが、毎回字幕制作の難しさを感じます。字数内にセリフを収めること、このために言い回しをしたり、難しい言葉で表したりします。中国語の勉強になると思い、始めた字幕制作活動ですが、中国語よりも日本語力や語彙が必要になることもあります。

今回の字幕制作で自分達なりに考えて工夫した点があります。映画の最後に解決さんが言う“别忘了，随手关灯。”というセリフです。普通に訳すれば「電気を消すのを忘れずに」となります。しかし私達は「電気と妻は大切に」とセリフにはない「妻」「大切にする」を入れました。

まず「妻」を入れたのは、映画のタイトルである『錦上添花』は読んで字のごとく「錦の上に花を添える」という意味です。解決さんにとっての「錦」は駅と人民公社に電気が通ること、「花」は新婦である隊長さんだからです。最後のセリフの前にもナレーションとのやりとりで隊長さんのことを惚気ています。なので自然な流れで「妻」を使うことができました。

次に「大切にする」と入れたのは、村にはなかった電気が苦労してやっと村につくようになりました。そんな大切な電気だから使わない時はすぐに消そう、節電して大切にしようという意味も含まれています。解決さんにとって隊長さんもずっと惚気られていた2人でやっと結婚することができました。そして隊長さんは大切な人となったからです。

以上のことから最後の解決さんのセリフを「電気と妻は大切に」としました。本来のセリフに従って訳をするのも大切ですが、皆さんにより面白く映画を観て頂きたいと思い、今回は最後を少し工夫してみました。もうご覧になった方は最後のセリフはいかがでしょうか。楽しんで頂けましたか？これからご覧になる方は最後のセリフのひとつに私達の工夫があることを想像して頂きながら、より映画を楽しんで頂けたら私達も嬉しいです。ありがとうございました。





## 【中国のアニメーション】



●中国最初の剪纸アニメーション  
**猪八戒スイカを食べる**  
 《猪八戒吃西瓜》上海美術電影制片廠1958年作品、21分

飲まず食わずで砂漠の荒れ寺にたどりついた三蔵一行。悟空とともに食べ物を捜しに出た八戒は、腹が痛いと言った悟空に決意を固め、悟空のいない間にスイカを見つけた八戒は……。中国アニメーションの創始者の一人、万古蟾が監督した中国初の剪纸アニメーションです。



●人形アニメーション  
**落とし主を捜せ**  
 《路边新事》上海美術電影制片廠1964年作品、15分

小良はある朝バス停で25元入りの封筒を拾う。街に買物に行こうとしていた張さんが農薬代の25元を落としたことに気づくが、小良が拾ったお金は張さんのものではなかった。拾ったお金を巡る当時の新しい人間関係を描くアニメーションです。



●中国最初的水墨画アニメーション  
**おたまじゃくしとお母さん**  
 《小蝌蚪找妈妈》上海美術電影制片廠1960年作品、15分

カエルのお母さんが卵を産んだ。卵からかえったおたまじゃくしたちは、まだ見ぬお母さんを捜して旅に出る。著名な画家齊白石の筆になる動物たちが生き生きと動き出す、中国独自の水墨画アニメの傑作です。

## 【中国の劇映画】

**锦上添花**  
 北京電影制片廠1962年作品、71分

監督●呉国光、謝添、陳方千  
 脚本●謝添、陳方千、陳其昌、羅国梁  
 撮影●張慶華  
 出演●韓非、趙子岳、凌元、田烈、陳志堅、李長榮

1963年1月25日の封切からわずか4日間で、北京だけのべ14万人が見たという、当時大人気を博した喜劇映画。

河北省の小さな鉄道の駅—小橋駅。ここには皆から頼りにされている駅長さんはじめ、個性豊かな駅員が揃って、日々業務に勤しんでいる。

この小橋駅に、鉄道音楽学院の教師をしていた段志高が、駅員として赴任してきた。段は人々のために働くこととやる気まんまんだが、やることなすこと少しピン트가ずれている。それでも駅や公社に電気を通すため小水力発電の研究に余念がない若者たちには、大いに頼りにされる存在だ。

独り者の駅長さんは人民公社の女性隊長といい雰囲気。なかなか「告白」しない駅長さんに周りはやきもきしているが、ひょんなことから駅長さんは彼女に「告白」することになった。ただしそれは「愛の告白」ではなくて……。



### ●中国映画『锦上添花』字幕制作

種村理恵、古川志保、北村綾子、白水明里、内川安由美、三田村康夏、武藤曼曼、小野沙也香、クリストファー・カトラー、山田華菜、花田優香、田代菜穂、馬場賢太、工藤優花、延塚享平、成田爽子(以上学生) 甲斐勝二、間ふさ子(以上教員) 協力:張璐

第6回福大生による東アジア映画字幕制作成果発表会リーフレット  
 福岡大学人文学部東アジア地域言語学科 2014年9月27日発行  
 制作:三田村康夏・種村理恵・古川志保・間ふさ子